

かたのがはら 交野ヶ原物語 vol.18



発行日…令和6年(2024年)12月12日 発行元…天の川・交野ヶ原プロジェクト実行委員会

今年には東海道整備400年の節目で、淀川とともに発展した東海道56番目の宿場である枚方宿にも注目が集まり、今号では淀川に沈みゆく夕日の写真を表紙、枚方宿に残る文化や老舗の歩みを集めて取り上げました。枚方宿には400年にわたる歴史が記録されています。私の好きな作家、宮部みゆきが『蒲生邸事件』エピソードで昭和史の記録を「片手では持ち上げにくいほど重い」と表現しています。紙で保存されていた記録は手で触れることができ、「片手では持ち上げにくいほど重い」と表現できましたが、近年では電子の海を漂うデータとなり、どこでも誰でもアクセスでき、ほぼ無制限に増殖、天文学的な容量となりつつあります。

ただ、そこに生きた人々の記憶や息づかいを感じるには、記録やデータといった歴史の縦糸を繋ぐ横糸が求められます。例えば、淀川の舟運が衰退したという一つの出来事が人々の暮らし・経済・文化への影響と変化を与えたのか。その変化を想像する力が横糸であり、文芸評論家の小林秀雄の言葉を借りれば「上手に思い出す」力です。本号では、枚方宿の特集に加え、万博の頃の風景と現在の変化を比較し、上手に思い出すことに挑戦しました。この思い出す力は時をこえ、過去の出来事が現代を生きる私たちに与えている影響を考えることも可能にします。そして、その力は今の私たちの生き方がどのような未来を作るか、逆に理想の未来に対して私たちの取るべき行動を示唆してくれそうです。

2025年は大阪・関西万博が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催されます。「いのち輝くとは？」「未来社会はどうあるべきか」を考える力、それこそが「上手に思い出す」力であり、「片手では持ち上げにくいほど重い」記録を未来へ活かす鍵です。本号を読む前後で、表紙の夕日の風景を見ていただき、皆様にとって「上手に思い出す」ことの意味合いを感じ取っていただければ幸いです。

嶋田 研志郎

交野ヶ原 4コマまんが劇場

交野ヶ原にまつわる4コマまんがを交野市で活動されているきくつぺさんが描いてくださることになりました!!4コマまんがを通じて交野ヶ原のことをもっと好きになろう!!

★作者プロフィール★



© NORIKO KIKUKAWA'S SPECIAL COMICS 2024. Dec.

交野ヶ原イベント情報

時間 未定
場所 夢洲 万博会場

EXPO 2025 大阪・関西万博
TEAM EXPOパビリオン ステージ発表

過去・今・未来
いのちつながり・かがやく盆踊り



※実施イメージを満かせるためのものであることから大幅に変更となる可能性があります。



※盆踊り盆歌のイメージを表現するためのイメージ写真です。

交野ヶ原の郷土芸能「交野節」は、いかにして現代の「河内音頭」へと発展を遂げたのか。

大阪を代表する盆踊り唄「河内音頭」の系譜を、歴史を紐解きながら体感できるステージが大阪・関西万博のTEAM EXPOパビリオンで上演決定。大阪の音頭文化のダイナミズムを感じよう。

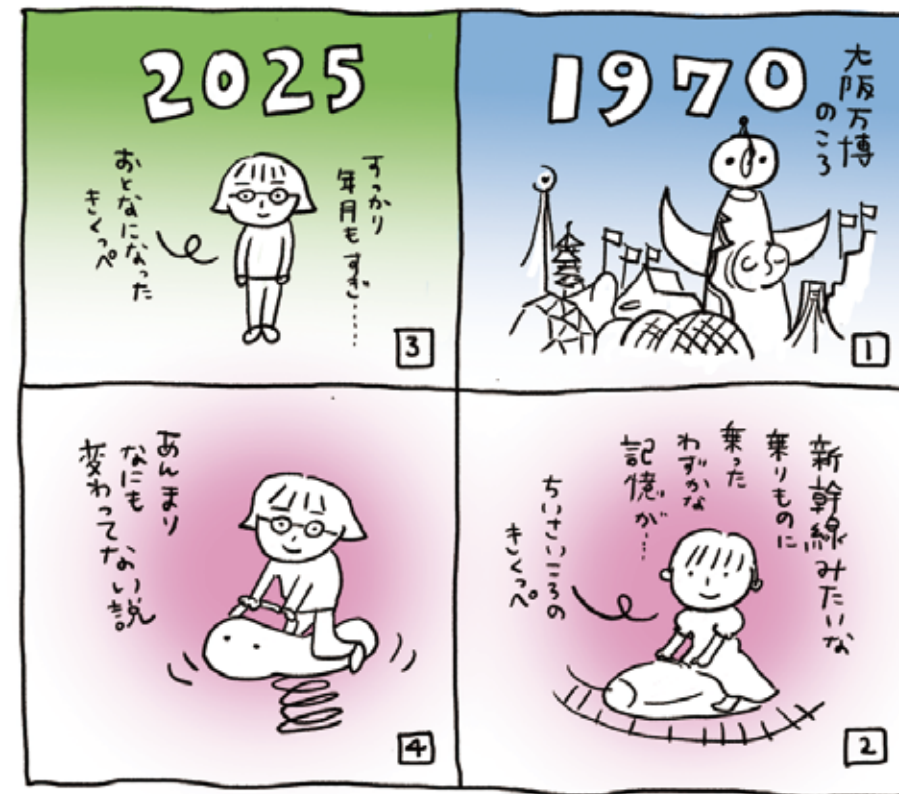
天の川・交野ヶ原
プロジェクト

「交野ヶ原プロジェクト」で検索!!



お問い合わせ先
MAIL: katanogaharapj@gmail.com TEL:072-395-3485(事務局)

年月はあっといふ間に過ぎゆくかの巻



© NORIKO KIKUKAWA'S SPECIAL COMICS 2024. Dec.

時間 10時から12時
場所 枚方ビオルネ正面玄関前

第4回 交野節発表会



毎年恒例となった交野ヶ原交野節・おどり保存会による定期発表会。伝統文化親子教室の子ども達のかわいい音頭から、保存会員による枚方・交野両方の節と踊りが堪能できます。獅子舞もあり。

俳句募集期間
2025年4月1日～5月31日

第6回 星の俳句コンテスト



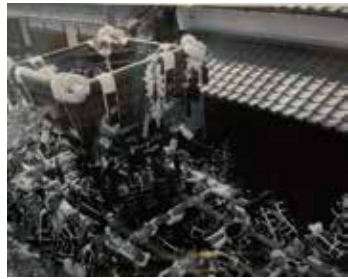
「星」をテーマにした交野ヶ原発の俳句コンテスト。昨年は日本を含む世界42ヶ国から3,565作品が寄せられました。「小学生以下の部」「中学生の部」「一般の部」「海外の部」の4部門で募集。投句無料。

当プロジェクト
主催イベント

「交野ヶ原物語」とは
天の川・交野ヶ原プロジェクト実行委員会は、星にまつわる地名や史跡、伝承が数多く集中して残る、全国でも稀有な当地「交野ヶ原」の魅力を全国に発信するために、2016年から活動を開始した枚方市・交野市在住の有志から構成される市民プロジェクト団体です。
私たちは、これらの交野ヶ原に残る史跡や伝承を「天空の地上絵」と名付け、より身近に感じてもらうために考え「交野ヶ原物語」を刊行しました。交野ヶ原という場所にもつづる過去・今・未来の時間軸、そして現代に生きる私たちの生活という横軸をつなぎ、老若男女が時を超えても手に取りたくなる「交野ヶ原物語」を皆様と共に創り上げてまいります。

交野ヶ原のふとん太鼓とだんじり

交野ヶ原の今昔をテーマに
枚方市の宿場町に伝わるふとん太鼓、交野市星田に伝わるだんじりについて紹介します。



桜町の女性神輿(枚方市文化財課提供)

毎年10月の第二日曜日に枚方市を巡行している三矢町、岡本町、岡東町、新町の4町のふとん太鼓の氏神である意賀美神社の正田宮司に伺いました。

枚方でのふとん太鼓の始まりは、説には枚方市元町の御茶屋御殿に豊臣秀吉が来た時に歓迎の意を込めて秀吉が初めて城を作った滋賀県長浜城にならい、ふとん太鼓を担いだことがきっかけだそうです。

東海道五十六次枚方宿のふとん太鼓について詳しい方として、三矢町町内会世話役片山治男さんを紹介していただきました。片山さんが小学生の時は新町・岡本町・岡東町・大垣内・三矢町・伊加賀・枚方元町・桜町の8町で行われていたそうです。

男性は色気を出すために女性の長襦袢を着て神輿を担ぎ、桜町では女性神輿がありとても人気があったそうです。片山さんも「中学生になったら担ぎたい」と思っていた矢先、昭和34年に伊勢湾台風の影響で日本中のお祭りが自粛。ふとん太鼓も8年間巡行が途絶えました。

しかし片山さんの思いは熱く、20歳の時(昭和42年)に三矢町の青年会を作り、ふとん太鼓を復活させました。当時、ふとん太鼓を復活させたいと思っていた岡本町の羽田さん

「片山、ようやくた」と先輩から言われたことが嬉しく印象に残っているそうです。

現在、岡本町老人クラブ高砂会会長の羽田隆英さんに伺うと、三矢町の復活を見て当時の岡本町商店街の皆さんが、昭和53年に岡本町のふとん太鼓も復活させました。羽田さんは三矢町の先陣を切って行動する姿勢を見て「三矢町さんの話がよく聞かないといけない」と思っており、現在の青年会会長にも伝えているそうです。

昔は曜日関係なく10月15日の例祭の日に巡行し、ルートも決まらず午前中は枚方市駅周辺、午後は枚方公園駅周辺を練り歩いていました。各町で神輿がぶつかり合い喧嘩になったこともあったそうです。岡本町と新町では神輿での喧嘩がきっかけで岡本町の住民が新町の共同墓地に通行できないようにしたという江戸時代の記録も残っています。

ふとん太鼓の歴史は途絶えること

もありながらも、町の人の情熱により繋がってきました。



もありませんが、町の人の情熱により繋がってきました。



現在ある星田の地車も、当時天満の大工町の地車の神様と仰がれた名工柳喜兵衛によって造られている。木彫工芸は相野藤七、金具工芸は大野嘉七という当時の名だたる名工によるものであった。それは江戸時代の庶民の芸術の最高の粋を集めたものである。

本来氏子の管理でなされる地車は、氏子の郷土の、そして地域の誇りであった。それが故に、星田の氏子は、地車を特に江戸時代の名匠によって造らせた。

現在ある星田の地車も、当時天満の大工町の地車の神様と仰がれた名工柳喜兵衛によって造られている。木彫工芸は相野藤七、金具工芸は大野嘉七という当時の名だたる名工によるものであった。それは江戸時代の庶民の芸術の最高の粋を集めたものである。

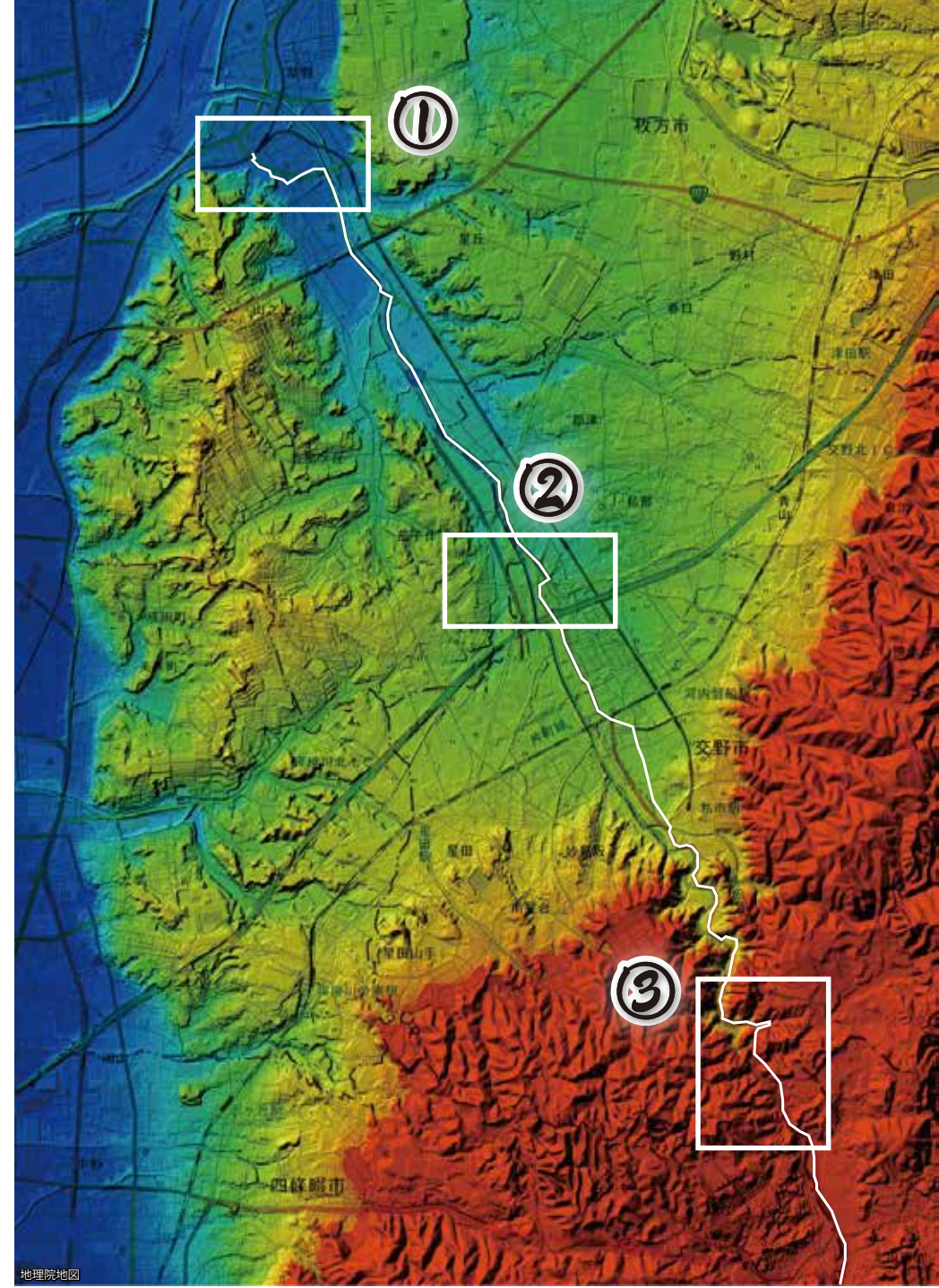
交野市星田の秋祭りと言えはだんじり(地車)である。昔は、秋祭りと言えは津田の提灯祭り、私部の神饌祭り、そして星田のだんじり祭りと言われた。それほど星田の地車は地元の誇りであった。



であった。特に金具工芸は豪華なものである。木彫工芸は当時の花鳥風月を題材に、鷹・鶴・朱雀・飛龍・猿・猯・唐獅子等をあしらっている。

現在も宵宮を迎える深夜の12時より、提灯を手に、鉦・太鼓を鳴らし、触れ太鼓が宵宮を知らせる。三〇〇年続く里の秋祭りの伝統である。それ程までに、里の若中にとって地車の曳行は、地域の誇りであったのである。

この貴重な伝統文化が後世まで残ってほしいと切に思う。



シリーズ第3弾 高低差で見る 磐船街道

高低差で見るく磐船街道

磐船街道は、枚方市と生駒市を結ぶ街道です。京街道「宗左の辻」を起点とし、天野川左岸沿いに南下し、村野の浜橋で右岸に移り交野市に入り、私部、私市を通過し、国道168号線を経由し磐船神社を過ぎたところで大阪府と奈良県の境界にさしかかり、最終的に清滝峠へと合流します。

この項では、高低差地図から磐船街道の魅力を紐解いていきます。

①: 京街道～天野川

枚方市岡本町にある京街道の「宗左の辻」が起点となり、そこからしばらく岡東町や大垣内町などの平坦な道が続いたあと、現在の枚方警察署の東側に出る坂道から禁野橋西詰に出て、少し高台となる天野川の堤防へと上がっていきます。それから以降、交野市街地に入るまでは、ほとんど天野川に沿って南下していきます。



②: 私部～諸街道

天野川沿いに緩やかな勾配を南下していくと交野市街地に入ります。その後、砂子坂から逢合橋東詰で左折し、私市へと進んでいきますが、ここでは磐船街道の他にも、山根街道、傍示越街道、東高野街道といった、旧街道が集中している地点になっています。街道が合流する地点の橋が「逢合橋」という名前なのもおもしろいですね。



③: 私市～磐船神社

JR学研都市線を横切り、私市の集落を抜けると、いよいよ磐船峡にさしかかります。国道168号線上を進んでいくと生駒山系に入っていくため、起点の宗左の辻からは約100m以上も高低差があります。

磐船街道一の急カーブの道に入る手前には、その昔、三韓征伐の前に、大和へ向かう途中通りがかった神功皇后が磐船神社の手前で食事をされた際に、食後に捨てられた梅干しの種が芽吹き立派に成長したという伝承地があります。そこを過ぎると、磐船街道の名前の由来であり、饒速日命(ニギハヤヒノミコト)が天孫降臨した場所という伝説を持つ磐船神社の東側を通り、奈良県生駒市域に入っていきます。

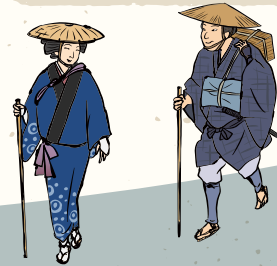


▶ 磐船街道は清滝街道へ合流します

※本稿で記したルートは明治期の測量図をもとに作成しています。【参考文献】…神野清秀(1989)『大阪の街道』

枚方宿にこの店あり

2024 年は東海道整備 400 年にあたります。
そこで今回、京街道沿いにある八幡屋と塩熊商店に取材をさせていただきました。



これまで何度もテレビで取り上げられ、「枚方の主」と紹介されたこともある八幡屋の女将、田中ヒデキさん（81歳）にお話を伺いました。
八幡屋は320年以上前から京街道沿いに店舗を構え、かつては間口が19メートルもあった大きなお店。「何でも屋」として、お酒や食べ物、果物などを販売してきました。昔はお店が閉まったあとも「おばちゃん開けて」と子供がお父さんのお酒を買いに来たり、枚方劇場の宣伝で映画のポスターを貼っていると映画チケットがもらえたそうで、それを目当てに来る人もいたりと言います。



改修工事後の店内

昭和48年にお店の改修工事を行い、当時はとても珍しい「コンビニエンスストアー八幡屋」という名前に。田中さん

も言葉の意味を知らず「なんやこの名前は。どこからとってきたんや」と驚いたそうですが、大工さんが最近の流行りだからと勝手に名付けて看板をつけてくれたそうです。店内には立ち飲み所も構え、お酒好きの人々で賑わっています。明治から昭和にかけて店を彩った看板やお酒の商品看板も展示されており、当時の貴重な資料を見ることが出来ます。

田中さんはとても明るく楽しいお母さんで、時間を忘れて多くの話を聞かせていただきました。



塩熊商店12代目店主の小野紘詳さんにお話を伺いました。

お店の歴史は古く、戊辰戦争の際に店が焼かれて資料がほとんど残っていませんが、口伝で継がれています。過去帳の一番古い記録は「七〇年ですが、それ以前から続いている由緒あるお店です。



店名の由来は、小豆島や赤穂の塩を取り扱っていたことと、代々長男の名前が「熊太郎」「熊次郎」「熊三郎」という名前だったことから、「塩熊」という屋号になりました。

時代にあわせて塩屋、萬屋、建材屋、雑貨屋と業種を変遷し、その痕跡は、お店の周りにある「(資)塩熊」と書かれた看板や倉庫に残されています。現在は雑貨屋として、店内には陶器や水引、手拭いなど和物を中心に販売しています。

枚方名物「くらわんか茶碗」も売られています。これは、江戸時代に淀川を三十石船が往来していた際に「餅くらわんか、酒くらわんか」とくらわんか舟から飲食物を売るためにも使われていたものです。

小野さんは26歳の時に結婚してお店に入られ、まちづくり協議会、五六市実行委員会、消防団など他にも



が結局は店のためになる。この町に必要と思ってもらえる店を目指している」と話しておられました。
現在はネットでも購入できてしまう時代ですが、塩熊商店はネットでは買えない地域や人とのつながりを大切にしています。

まとめ

今回取材した八幡屋も塩熊商店も300年以上の歴史を持つ、枚方で「二を争う」歴史あるお店です。お二方のお話を聞いて、町の風景は変わっても、変わらない物・者、そしてそこに住む人の心が現在にも引き継がれているのだと感じました。地域のための活動がお店に還元され、枚方を支えてきてくださったのだと感じました。

皆さんも歴史ある枚方京街道にぜひ足を運んでみてください。

交野ヶ原で脈々と受け継がれた交野節が 大阪府無形民俗文化財に選定！



歴史ある戎舞台にて交野節披露
@大阪 道頓堀

行ったことが起源とも言われています。やがて、交野ヶ原の村ごとにそれぞれの節回しや踊りが生まれ「我が村こそが一番だ！」と村の青年団たちが切磋琢磨し、競い合ったと言われており、その時代の人々にどれほど愛されていたかがよくわかります。

交野節の人気は非常に高く、交野ヶ原から時代と共に大阪府の各地域へと伝わり、河内にある伝承音頭を「食いつぶした」と言われるほど、その存在感は他音頭と一線を画していました。交野節が広まるにつれて、節（ふし）を崩して歌舞伎や浄瑠璃等の人気外題を読み込んだ「歌亀節」が誕生。そこから「初音節」や「鉄砲節」が生まれ、現在の河内音頭へと進化を遂げました。

◆交野節の変遷◆



★ポイント★
交野節は河内音頭の【ヒイジサン】

《交野節消滅の危機》

そんな交野節ですが、明治期に千日前の寄席で滋賀県の「八日市祭文音頭（江州音頭）」が披露されたことをきっかけに、民衆の興味関心が江州音頭へと流れ、時代とともに人々から忘れ去られ、

《未来に繋ぐ為に》



交野節の披露

交野ヶ原の大切な文化である交野節が途絶えてしまう危機に。

そこで、菊若師匠と生前親交のあったスターダスト河内の有志メンバーが、2017年に交野ヶ原交野節・おどり保存会を発足。地元の文化である交野節を次世代に残す為に、地元の盆踊り会場はもちろん、近畿一円、遠方では鳥取や東京、マレーシアなど、大阪府内外で交野節を披露し、交野節の魅力発信の為に活動を続けてきました。また、地域のお年寄りの方へ聞き取り調査を行い、冊子にまとめ、子ども達に少しでも興味を持ってもらう為に、地域の偉人や伝承を基に作詞した音頭の絵本を作成し各小学校や図書館等へ寄贈を行いました。さらに、文化庁の委託事業として、伝統文化親子教室を開催するなどの取り組みも行っています。



伝統文化親子教室を開催

2018年から、大阪府文化財保護課に、交野節を文化財として行政に保護し、

《交野節を世界へ》

その結果、2022年の大阪府文化財保護審議会に上げていただき、翌2023年1月25日の答申を受け、3月13日付けで、「大阪府無形民俗文化財記録選定」に選定されました。



交野節で最も古い外題
【石川五右衛門一代記】の絵本

でもらえる方法は、大阪府文化財保存会に問い合わせ、結果や文獻資料、録音・録画データ等を整理して、折々に大阪府に報告し、調書を作成していただきました。



万博音頭を披露
@マレーシア

2025年開催の大阪・関西万博の機運醸成の為に、万博首長連合と連携し、交野節の唄と踊りをベースにした「#万博音頭交野節編」を作成。歌詞に日本全国の美味しいものを読みこみ、日本の魅力を万博音頭に乘せ発信しています。大阪・関西万博に向けてマレーシアでも万博音頭と交野節を披露しました。

今後も、交野ヶ原が生んだ郷土芸能交野節を守り、次世代につなげていくために保存会一同精進してまいります。

《交野節をおもしろい》

大阪の夏に欠かせない「河内音頭」。皆様も一度は踊った事があるのではないのでしょうか？

そんな河内音頭の元節「交野節」は、ここ交野ヶ原（現在の枚方市・交野市）で生まれました。

歴史は古く、最も古い説では南北朝時代まで遡る事ができ、南朝方の楠木正行の軍勢が戦に敗れ、この地で落ちのびた楠木軍の軍師・和田賢秀が、戦死した人を弔うために念仏踊りを

枚方市提供



枚方市文化財課提供



昔はほとんど大きなビルがなく、市役所屋上からは禁野橋や天野川も見わたすことができる。駐車場らしき土地は現在も残っているようだ。

昔と比べて、百済寺整備で盛土されたため、地面の高さが変わってしまっている。石碑の位置もやや南側へと移動されていた。



現在の石碑はこちらへ移動

枚方市文化財課提供

官公庁団地～天野川方面

国特別史跡百済寺跡



市営岡東駐車場



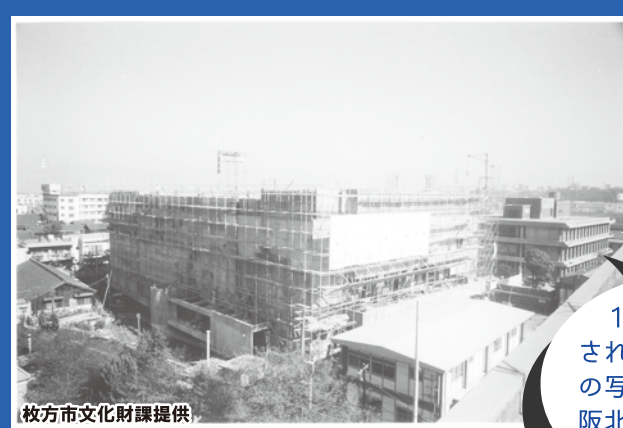
枚方市文化財課提供

この年に開設された市営駐車場。今では地上4階建ての305台が収容できる立体駐車場だが、当時は屋外平地。今も昔もほぼ満車なのは市駅前の繁栄の印。



枚方市提供

市民会館大ホール



枚方市文化財課提供

1970年に建設工事が開始された大ホール、その建設途中の写真が残っている。現在は大阪北部地震の被害によって閉鎖中となっている。

ニッパークもできて市駅存在感が増している。

現在よりも駅前に民家が多かったことがわかる。

2025

市庁舎屋上から枚方市駅方面

1970

大阪府吹田市で開かれた前回の日本万国博覧会が昭和 45 年。その当時の交野ヶ原はというと、枚方市は市制 23 年目、交野市は生まれる前でした。そして令和 7 年、55 年という月日を経て日本万国博覧協会がまた大阪で開催される予定です。本記事では、枚方市の街並みが当時からどのように変わっていったかを『写真集枚方市 50 年』を用いて紹介していきます。

1970年に開設された幼児療育園だが、現在は令和7年3月14日まで解体工事が実施されている。解体後は、施設が作られるようだ。



枚方市文化財課提供

幼児療育園

55年ぶりの万博開催 枚方今昔写真館



スマホカメラ



フィルムカメラ

ひらかたサンブラザ

1975

橋本勲撮影 枚方市文化財課提供



この時期にオープンしたサンブラザだが、様子は今も昔も特段変わっていないようだ。当時、隣には近鉄百貨店があり、連絡通路がよく見えて懐かしい。枚方市駅もまだ高架化する前。